

外圧で開国？・・・日本のケータイ

酒井 寿紀 (さかい としのり) 酒井 IT ビジネス研究所

iPhone 登場

日本の携帯電話は、通信事業者が中心になって、垂直統合型のビジネスを築いてきた。しかし 2007 年に、こういうビジネス形態を揺るがすような出来事が海外で 2 件起きた。

その一つは、アップルによる iPhone の発売である。iPhone は、アップルのパソコン用オペレーティング・システムである OS X のモバイル版を使ったスマートフォンの一種である。事実上の国際標準である GSM 系の携帯電話網で通話ができるほか、インターネットでメールの送受信やウェブの閲覧ができる。そして、アップルの iPod と同じように音楽を聴いたり映画を観たりできる。

iPhone の最大の特長は、3.5 インチの液晶パネルがタッチスクリーンになっていて、その操作性が非常に洗練されていることだ。大半のボタン操作や文字入力タッチスクリーンで行われ、物理的なボタンやキーはほとんどない。指先で画面のアイコンに触れて操作を選択でき、指先を画面上で滑らせてアイコンの移動や、画面のスクロールができる。そして、2 本の指で画面に触れ、指の間隔を広げたり狭めたりして画面の拡大・縮小ができる。また、iPhone を縦から横にすれば、画面が自動的に回転する。操作が非常に直感的で分かりやすい。1980 年代にアップルの CEO のスティーブ・ジョブズはマウスとアイコンでパソコンの操作に革命をもたらしたが、今回は「マルチタッチ」のタッチスクリーンで携帯電話の操作に革命をもたらそうとしている。

iPhone は、米国では AT&T の携帯電話で 2007 年 6 月から使えるようになり、その後、2007 年 11 月には、英国の O2、フランスのオランジュ、ドイツの T-モバイルでも使えるようになった。これらはすべて GSM 系の大携帯電話会社で、2008 年 1 月には合計出荷台数が 400 万台を超えたという。日本では GSM

が使われていないため、現在の iPhone をすぐに使うわけにはいかず、iPhone が第三世代の携帯電話をサポートするようにならないとダメだ。現在 NTT ドコモとソフトバンクモバイルがアップルと接触中と言われている。

Android の衝撃

もう一つの出来事は、グーグルが 2007 年 11 月に、Android という携帯電話用のソフトウェアのプラットフォームを無料で提供すると発表したことである。Android は、Linux のオペレーティング・システムとその上で動く一連のミドルウェアからなる。グーグルとしては、Android を使った携帯電話が増えれば、その携帯電話上でのサービスの提供で広告収入が得られるので、無料でも意味があるのだらうと言われている。

グーグルは、33 社の参画を得てオープン・ハンドセット・アライアンスという団体を設立し、世界中の携帯電話に関連する企業を Android の世界に呼び込もうとしている。日本の NTT ドコモや KDDI もこの団体に加盟している。グーグルは、ソフトウェアの開発環境を整備し、ブラウザ、メール・クライアント、アドレス帳など、携帯電話の主要なアプリケーション・プログラムについては同社自身が提供することによって、Android の採用を魅力的なものにしている。こうして、グーグルは、Windows のパソコンと同じようにオープンな世界を Android の携帯電話上に構築しようとしている。

Android を使った端末は、台湾の HTC がすでに試作品を作っていて、2008 年後半には製品を出荷する予定だという。また、通信事業者としてはドイツの T-モバイルが Android を採用する予定だと言われている。

黒船来航で開国？

アップル以外にも、スマートフォンにタッチスクリーンを使うメーカーが増えそうだ。ソニー・エリクソンやサムスンがタッチスクリーンを使った Windows Mobile の携帯電話を出すという。また、台湾の HTC による Android の携帯電話の試作品もタッチスクリーンを使っている。今後、スマートフォンは iPhone 流のタッチスクリーンを使ったものが主流になるかもしれない。そうなれば、日本の通信事業者は、ユーザーの要求に応えるために、競争してこれら海外の携帯電話端末を採用するようになるだろう。日本の端末メーカーは、製品開発の方向付けを通信事業者に頼っていたのでは、海外はおろか日本の市場でのシェアの確保さえおぼつかなくなる。

携帯電話の世界でも、パソコンのように自由にアプリケーション・プログラムを開発したいというニーズは強い。企業向けの、業種や業務ごとのアプリケーションの要求もあるし、個人向けの、趣味や娯楽の世界でのニーズは千差万別だ。一方、現在携帯電話の主力プラットフォームである Symbian や Windows Mobile などは、パソコンのように十分にオープンになっていない。そのため、Android を採用する携帯電話のメーカーや、Android に対抗してプログラムの開発環境をオープンにする企業が出て来るものと思われる。アップルも 2008 年 2 月に iPhone 用のプログラムの開発環境を公開する予定だという。このようなオープンな世界が増えれば、通信事業者ごとに通信サービスからコンテンツまで垂直に統合した事業形態は崩れていくだろう。

幕末に黒船の来航で開国を余儀なくされたように、日本の携帯電話も、外圧によって通信事業者ごとの鎖国状態を維持することが困難になると思われる。

「OHM」2008 年 4 月号

【後記】 アップルは 2008 年 7 月に、「iPhone 3G」という第三世代の携帯電話に対応した iPhone を発売した。これは当初 22 か国で使えたが、2008 年 12 月現在 79 か国に広まっている。日本でもソフトバンクモバイルの携帯電話で使うことができる。また、アップルは 2008 年 3 月から iPhone 用のアプリケーション・プログラムの開発ツールの試用版の提供を始めた。2008 年 12 月現在、これを使って開発されたサード・パーティーのプログラムがすでに 1 万種類以上流通しているという。

米国の携帯電話事業者の T モバイルが 2008 年 10 月に Android を採用したスマートフォン「T-Mobile G1」を発売した。これは台湾の HTC が開発・製造した製品で、3.2 インチのタッチスクリーンと、パソコンと同じような QWERTY 配列の小型キーボードを持っている。